



三春中学校だより

第 55 号

発行日 平成 31 年 1 月 8 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【新年も『命の輝き』で！ ～共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに。～】

平成 31 年が始まりました。“平成”最後の年明けとなります。

三春中学校は、今年度、上記教育目標の実現をめざし、『忠恕』『探究』『必達』のめざす生徒像の実現にむけ、『命の輝き』～共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに～という経営方針のもと歩んでまいりました。平成 30 年度も残り 3 ヶ月、これまでの歩みをもとに、充実した年度であった、『命の輝き』がもう一つ増えたと、すべての生徒のみなさんが言えるよう、まとめの 3 ヶ月の教育活動に取り組んでまいりたいと存じますので、前年同様、学校とご家庭の密なる『連携・コミュニケーション』のもと教育活動にあたってまいりたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

【『三春中学校』再確認！ ～年の初めにあたり、三春中学校のめざすところを明確に。～】

◎ 『三春の教育』

一時期、学校教育は生産性や効率性に目を奪われ、どの子にも一様に同じ量だけ教育を詰め込もうとし、詰め込まれた量が教育の成果と勘違いされた時期がありました。その働きかけは、学校から調和や潤い、生きがいや共にあることのかげがえのなさの実感を薄れさせ、夢や希望をもちたくましく生き人の心の痛みを感じて生きていくことの大切さに鈍感になっていました。

三春町では、生涯学習の視点をもち一人ひとりの児童生徒に「生きる喜び」を育む「人間教育の回復」をめざし、教育の方向性として「教える」から「学び、育む」への転換を図るべく、「一斉画一的な指導観・教育観からの脱却」をめざし、「創造的・建設的指導観・教育観にたった教育改革」、「子どもと教師の夢が共に育つ学校づくり」に取り組んできました。

◎ 『教育目標・めざす生徒像』

『教育目標』

『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を、主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる。』

『めざす生徒像』

『忠恕』：「うるわしい心をもつ生徒」

『探究』：「夢に向かって学び続ける生徒」

『必達』：「心身を鍛え、未来を切り拓く生徒」

◎ 『三春中学校の重点目標』

- 1 学年型教科教室の学習環境を生かし、学習の個別化・個性化を図ることを通し、学び合い、学び続ける生徒の育成
- 2 特別支援教育における一人ひとりの障がいの特性等に応じた指導の充実

◎ 『三春中学校の特色』

≪三春中学校の特色は？ ～中学校再編後 6 年目の『三春中学校の重点目標 1』より～≫

1 【学習は、自ら求めて、自ら動く、学年型教科教室方式での学びです。】

- 各教科が専用の教室をもち、生徒自らが移動して学習します。
- 自ら登校し、学活や道徳を学ぶ学級を確保し、“わがクラス”意識も育てます。
- その教科を「学びたくなる」、「好きになる」教科教室づくりに取り組んでいます。
- 授業の中で、「聴き合い」「学び合い」を促進し、“共に”成長をめざします。

2 【ホームベースは、生活の拠点、語らいの場です。】

- 「公共の場」での過ごし方、使い方を学び、集団や社会の一員として自立を促します。
- 「教科」を学び、「生き方」を身につけるのに絶好の場です。
- 「友達がいるから今日も登校します。」不登校「0」をめざします。

3 【すべての活動は、主体性、責任感をもって取り組みます。】

- 自ら求めて情報を得、ホームベースで準備し、移動し学習します。
- 自習時間を作らず、教科の専門教師と常に学ぶため、時間割が変更されます。
- 二学期制（V 期制）で、R・P・D・C・A サイクルの実現をめざします。

第Ⅰ期「出会い・決意期」 第Ⅱ期「努力・熱中期」 第Ⅲ期「挑戦・向上期」

第Ⅳ期「感動・継承期」 第Ⅴ期「夢作り・感謝期」（冬休み明けから年度末まで）

4 【学校を内外に開き、みんなが思いを共有できる学校をめざします。】

- 内外に情報を積極的に提供し、生徒・学校・保護者・地域が共に進む学校をめざします。
- 『命』を最優先に、すべての子どもたちに、安全・安心な環境を準備します。
- 困っているとき、「助けて。」「大丈夫。」と自然に言える学校をめざします。

《三春中学校の特色は？ ～中学校再編後6年目の『三春中学校の重点目標2』より～》

1 【インクルーシブ社会の実現をめざします。】

社会的自立が「学び」の到達点になります。特別支援教育コーディネーターの指揮のもと、合理的配慮がなされ、教育的ニーズをふまえた個に応じた指導を展開すると共に、社会の一員としてなすべきことを、障がいの実態に応じつつできるよう努力していくことが大切です。

—教職員の資質向上を土台とした、小学校・家庭・地域との連携—

教職員の資質向上を図ると共に、入学前に授業参観、交流会、保護者面談、支援・教育計画の引継ぎを行い、中学校入学準備期間を設定することで、見通しをもって中学校生活に臨めるようにする。

—短・長期にわたる支援—

個別の支援計画・教育支援計画・指導計画に基づき、生涯にわたる支援の流れの中で、医療、行政等との緊密な連携のもと、障がいの実態や個の特性に応じ、短期・長期の目標や見通しをもった指導・支援を展開する。

—互恵的な交流及び共同学習の展開—

個に応じた交流及び共同学習の在り方を共有し、インクルーシブ社会実現のための互恵性（win&winの関係）を明確に意識した、双方にとって有効な交流及び共同学習を展開する。

—関係性を意識した通級指導—

障がいや学習の実態、個の特性等に応じ、日常生活・学習との関係性を十分にふまえ、補充学習やSST等を効果的に実施し、補完・連携のもとで円滑な学校生活の実現をめざす。

【冬季の安全・安心な学校生活！ ～ゆとりをもった登下校を。～】

冬季休業中を含め、これまでのところ、路面の凍結等による転倒等の事故は報告されていません。このまま1件の事故もなく今年度の“冬”を過ごしたいと思います。これまで同様、道路状況に応じ、凍結によるスリップ転倒等の不測の事態にも備え、冬季特有の状況に応じた服装・歩行・送迎等をどうぞよろしくお願いいたします。また、学校は公共機関ですので、公共の財産であり、みなさんの税金で運営されています。これまでも“省資源・省エネルギー化”にむけ学校としても取り組んでまいりました。自動車のハイブリッド・電気・水素エンジンなど、社会では、化石燃料に頼らない社会づくりにむけさまざまな取り組みがなされています。

以上のとおり、今後も、ゆとりをもった登下校からの安全・安心な学校生活、省資源・省エネルギー化にむけ、学校としてもできるところから取り組んでまいりたいと存じますので、以下の2点に關しましてご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

～公共の財産の中で働く～ 7時解錠・19時施錠の励行・努力

→ ゆとりをもった登下校、出退勤、省資源・省エネルギー化にむけ、早すぎず、遅すぎない学校運営をめざす。

～段取り八分～ PTA会議等の夜の会議18：30開始・1時間会議の実施

→ 役員会や委員会の中で仕事を分担し、事前の準備・会議の段取りをよくし、定時に始まり、1時間を目安に集中して作業にあたる。

【町民の一人として！ ～本年度、もう一つの大切な心がけです。～】

1月4日（金）、平成31年三春町新年交礼会が、三春交流館まほらにおいて行われました。

開会のことば、黙祷、国歌・町民の歌斉唱の後、町長様より年頭の辞をいただきました。昨年町政に関して、町としてのさまざまな取り組みについて述べられ、その後、平成31年の三春町の未来図についてふれられました。

災害のない安全・安心なまちづくり、少子高齢化への対応、宅地造成、役場新庁舎、郡山広域圏構想などについてふれられ、町民のみなさんが、「三春町でよかった」と思えるまちづくりに取り組んでいくという旨をお話されました。

町を設置者として成り立っている三春中学校としても、将来の三春町を背負って立てる人材の育成にむけて、保護者のみなさんと連携・コミュニケーションを図りながら、さまざまな取り組みを着実に進め、子どもたちが、「今日もがんばった。」「三春中学校でよかった。」と言えるよう努めてまいります。

春には年号が変わる予定ではありますが、平成31年もどうぞよろしくお願いいたします。

